

今回は、チームづくりについて、ほんの一部を紹介したいと思います。

まず図-1をご覧ください。

チームとは？

それは共同作業により勝負する事だと考えています。

ラグビーの競技特性を考えれば、15人対15人の戦いと1人対1人の戦いがあります。

その事を考えると『個人の責任』を果たす事と『集団の精神』を理解する事の両方が重要になってきます。

『個人の責任』しかできない選手は、一人よがりとなり、『集団の精神』しかできない選手は、甘えとなってチームに打撃を与えてしまいます。

SWの選手にはどちらか一方ではなく両方を求める事でチームへの帰属意識を高めています。

図-1



チームの事をわかって頂いた上で、どのようにして戦うかを考える必要があります。

ラグビーに限らず物事の本質をとらえる事は、目的を明確にする上でも非常に重要だと考えています。

では皆さんに質問しますね。

図-2の『□□□』には、ある同一語がはいります。おわかりになりますか？

図-2

ラグビーとは？

Q. ラグビーは□□□ゲームである。

Q. ラグビーの主役は□□□である。

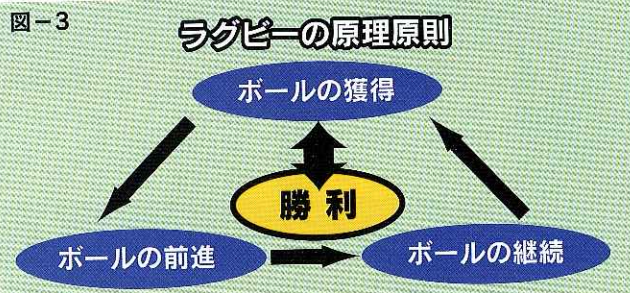
A. ラグビーで最も重要な事は□□□の獲得である。

答えは『ボール』です。つまりボールの獲得が勝利への一番の近道なのです！

これを踏まえるとラグビーの原理原則が浮かび上がってきます。

それが図-3です。このサイクルが非常に大切なんですね。

図-3



では、ボールを獲得するには、何をすべきなのでしょう？

図-4で示したとおり3つしかありません。この強化が最重要課題としています。

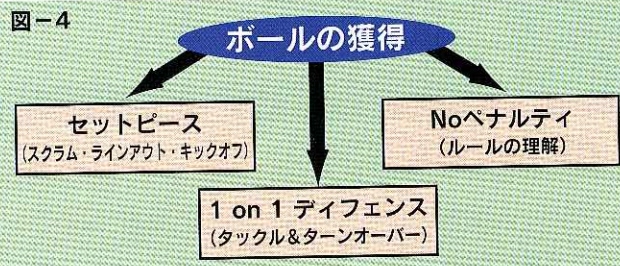
そして目標であるイースト11トップ3を勝ち取り、あらゆる局面でプライドあるチームに変革するため、

2007 SWは、スローガンを『シフト～変革～』にしました。

常に『シフト』することを追求し、トライアルゲームとなる三菱相模原ダイナボアーズ、クボタスピアーズにその想いをぶつけ、2007イースト11シーズンに挑みたいと思っています。

ご声援宜しくお願い致します。

図-4



2007年度プレシーズン試合結果

	氏名	試合日程			
		5/20 vs セコム	6/17 vs セコム	7/14 vs タマリバックス	7/28 vs ノーザンレッツ
PR	武藤 憲介	1	16	1	1
	奥田 昌哉			1	1
	高松 貴之	3	3	3	3
	下山 信吾	18		3	3
HO	松井 康雄	2	2	2	2
	原田 亮太			2	2
	小野寺 政人	17	17		
	三浦 健博	4	4	4	4
LO	佐藤 聖	19		4	4
	山本 倫大				
	S.アフェンキ		19	7	7
	佐野 憲介	6	6		6
FL	京野 和也	20	18	6	6
	岡崎 英二	7	7	6	5
	楠本 洋平	5	5	5	
	山田 伸太郎			8	8
No8	Q.ウィルソン			8	5
	三浦 智拓			5	7
	T.フィータ	8	8	8	
	池村 章宏			8	
SH	向井 陽	21	9	9	9
	藤原 浩平		20		
	八雲 俊介	9		9	9
	細川 進			13	13
SO	椎村 雅彦	10	21	10	10
	藤原 誠	11	15	11	11
	P.アラティニ		10		
	佐藤 健行			13	13
CTB	津嶋 俊一	13	12	12	12
	石川 文彦	12	13		
	金 和則	14	14	11	11
	木立 博幸				
WTB	津田 康太	22	22		14
	菅野 朋彦			14	
	菅野 朋彦			14	
	藤原 智介	15	11	15	15

2007.5.20 第42回IBC杯招待ラグビー			
盛岡南公園球技場 (K.O.13:05)			
釜石シーウェイブス	VS	セコムラガッツ	
7	0-21	35	7-14
2007.6.17 第9回北上招待試合			
北上総合運動公園陸上競技場 (K.O.13:00)			
釜石シーウェイブス	VS	サントリーサンゴリアス	
12	5-33	61	7-28
2007.7.14 ラグビーフェスタ2007 in HACHIJIMA			
八幡平市松尾陸上競技場 (K.O.15:00)			
釜石シーウェイブス	VS	タマリクラブ	
62	33-0	12	29-12
2007.7.28 2007釜石ラグビートーナメント			
釜石市陸上競技場 (K.O.17:00)			
釜石シーウェイブス	VS	秋田ノーザンレッツ	
43	33-0	12	10-12

※左表中の番号は出場した試合のポジション。
16番以上の番号はリザーブ選手登録。

イーハートブリーグ

2007年度【春季編】

釜石SW チームディレクター 高橋 善幸

岩手ラグビーの強化・育成、普及・振興を目的とし、かつ国内では例を見ない画期的な試みとして発足したイーハートブリーグ。開幕戦から予想以上に質の高い試合が繰り広げられたことで、従来と比較しある一定の効果があったと考えております。それは、シーウェイブスの選手をそれぞれのチームに補強派遣するという試みによって、各チームのレベルアップを図れたことと、それぞれに派遣された選手は派遣先チームでの経験を積むことで、県内のラグビーに携わる人たちとの一体感を作り上げ、県下全体で岩手ラグビーの再構築するための足がかりが付いたものと感じております。しかし、一方ではタイトな大会スケジュールや選考選手の強化方法など、さらに改善しなければならない課題もありました。その部分については来シーズンに向けて改善を施し、成熟を図っていかねばならないと考えております。

イーハートブリーグ元年、すぐには大きな成果は難しいかもしれませんが、秋からのシーズン、シーウェイブスを頂点に各カテゴリーにおいて少しでも結果に結びつけていくことが重要だと考えております。